

# 2002 年度政務調査費市民監査報告

## 1, 今年は視察に注目

地方自治法に政務調査費についての規定が設けられ、2001年度から条例によって各自治体で議員、会派に政務調査費を支給することが可能になりました。政務調査費については地方自治法が規定する以前から、議員の第二(第三)の給与でしかない、という批判や、多額の公費が支出されるにもかかわらず、領収証すら公開しなくても良い制度になっていることなどが批判されています。その批判の第一は、月額一人あたり50万円以上もの政務調査費の支給を受けていながら領収証や詳細な報告書などを公開しなくてもよいとされている名古屋市議会議員(55万円)や愛知県議会議員(50万円)にあてはまるものですが、これより少額を支給され、領収証や報告書を公開している自治体の会派、議員でも、2001年度の政務調査費の使途の調査の結果、本当にこれらを税金でまかなう必要があるのか、という根本的な疑問を払拭できない使い方が多く見られました。そして、2001年度の調査でとりわけ疑問を感じたのは、政務調査費を用いた視察でした。2001年度には世界遺産の視察を目的とする観光旅行としか言いようのない海外視察をしていた会派までありました。多くの議会では、各委員会でも必要な視察をしています。これとは別に政務調査費を用いて行う必要のある視察としては、どのようなものがあるのでしょうか。果たしてまた、それらの視察の結果が市民にわかるように公開され、議員さんの活動にどのように生かされているのでしょうか。これらの問題意識から、今回2002年絵雄の政務調査費の使途の調査は視察に焦点を絞って行いました。

## 2, 調査方法など

(1) 愛知県内全32市中、2002年度に政務調査費を支出していない一宮市、尾西市、田原市と、情報を公開していない名古屋市を除く28市を対象に、2002年度の政務調査費の関係文書の情報公開請求をし、県外調査旅費に使った一人あたりの金額の多い上位50会派(一人会派も含む)を抽出しました。抽出方法のルールは以下の通りです。

政務調査費のうち調査旅費として県外視察に費やした金額を計上した

・政務調査費のうちの「研究研修費」で県外に出かけた費用は計上していない  
使用額が政務調査費支給額を上まわった場合は、政務調査費支給額を上限とした  
年度途中で会派が改廃・再結成した場合は、別会派とみなした

会派存続期間が12か月未満の場合は、12か月に換算した

・例えば3か月存在した場合は、使用額を4倍(=12か月/3か月)した

・したがって、「1人あたり」県外調査旅費は「12人月あたり」となる

(2) 50会派が議長宛てに提出した視察の報告書に加え、50会派に対してアンケート調査(質問1: 県外視察先と視察目的は何ですか 質問2: 百聞は一見にしかず、と言いますが、視察をして初めて得ることのできた情報は何ですか 質問3: 視察結果を平成15年度までにどのように生かしましたか)を行い、その結果をふまえて、納税者からみて視察が効率的、効果的に行われているといえるか、視察が議員活動に生かされているか、市政に生かされているか、という観点から評価、コメントをしました。

なお、小牧市と豊田市については、視察参加者の発言も調査し、それぞれの視点から議員活動に視察がどのように生かされているかを数値化し、詳細にコメントを付しました。これらが可能と

なったのは、両市議会が議員の議会内での発言をホームページ上で検索可能な状態で公開していることによります。

### 3、調査結果

調査結果の詳細は後記レポートを参照していただくとして、ここでは特に気づいた点を指摘します。

#### (1) 多人数で行う視察が多すぎる

昨年も指摘しましたが、議員の興味はそれぞれの筈です。せっかく公費を用いて行う視察であれば少人数で実施する方が効果的で、つっこんだ意見交換ができるのは当然です。このように見たとき、他の会派と合同して行う視察などについては実施する合理性は見られません。

#### (2) 人気の視察先—北海道と沖縄は？

50会派が行った北海道へ視察は2002年度の年間で年間35件でした。しかし、このうち、岡崎市の自民党市議団などは年間5回も、岡崎市の自民新風会、豊田市の思政クラブ、豊川の正政会は年間2回北海道に視察に行っています。50会派のうち、複数回北海道に行っているのは上記4会派です。北海道に視察に行った会派だけを抽出すると、50会派中28会派ということになります。6割弱の会派が北海道の視察に行っていることにはなるのですが、愛知県と気候や産業の異なる北海道にそれほどまでに視察に行く合理性を見いだせません。各論でも指摘がなされていますが、北海道視察結果が議会活動や市政にどの程度生かされているかは疑問だけです。

視察が観光目的であったであろうことは復命書や私たちのアンケート調査の結果からもかいま見ることができますが、不況にあえぐ北海道の自治体を視察して、財政的に豊かな自市が恵まれている、という感想を持つ会派も複数ありました。しかし、視察した結果のもっとも大きな感想がそのようなことであることを知ったら、視察先の自治体はどのように感じるのでしょうか。もう二度と来てほしくない、と感じる筈です。視察先に対する敬意を持ってほしいと思います。

一方、沖縄視察は10会派11件にとどまりました。ここでも岡崎市の自民党市議団は2回、沖縄視察をしています。2001年度の政務調査費による沖縄視察の件数をまとめていないので正確な比較はできませんが、かつては沖縄は北海道とならんで視察のメッカと言われたところでした。2002年は前年米国で起こったテロ事件の影響で沖縄への観光客が減少した、というニュースを思い出しましたが、議員の視察についても同じ原因で沖縄視察が減ったのでしょうか。

なお、岡崎市の自民党市議団は実に年間で北海道に5回、沖縄に2回も視察に行っているのです。岡崎市の政策立案のために北海道や沖縄に行く必要がそれほどまでにあるのでしょうか。

#### (3) 無意味な視察・意味不明の視察

何のために行ったのか理解に苦しむ視察や明らかに無意味と思われる視察、事前に調査すれば当然にわかるはずの結果も多く見られます。ここにいくつかを挙げますが、議員さん好ブレイクプレー集を読んでいるような気持ちになります。しかしむろん、こういう視察は私費でやるべきです。

- ・奥尻町で津波対策を視察（海のない岡崎市の自民党市議団）
- ・宜野湾市で海浜公園を視察（海のない岡崎市の自民党市議団）
- ・千歳市の視察の復命書の記載「農家一戸あたりの所有面積が3町歩以上あり、気候も異なるので特別参考にならなかった」（豊川市正政会）

- ・青森県で核燃リサイクル事業の見学（発電所も事業計画もない岡崎市のゆうあい21）
- ・室蘭市で風力発電を見学し、「平均風力等が不足のため、刈谷市では無理だろうと判断」（刈谷市自民市政会）
- ・やぶさめ観光（豊田市フレッシュ21）
- ・冷涼な根室市、釧路市に生ゴミ処理を目的として視察（西尾市の新世クラブ）
- ・北方四島交流センター視察（豊田市加茂みきお）
- ・マルチメディアセンターの視察を目的として深川市（北海道）を訪問したが休館日で視察できなかった（犬山市 平成会、平岡敦子の合同視察旅行）
- ・苫小牧市のリサイクルプラザの視察の感想「江南市としては苫小牧市のような広大な敷地は確保できない」（江南市 自民クラブ）

#### 4 むすびにかえて

去年の調査（2001年度）と比較して、名古屋市を除く愛知県内の市では2002年度は海外視察がなくなりました。これが同時多発テロの影響なのか、視察内容を各会派が十分に検討するようになった結果かは不明です。しかし、視察の内容や感想、という観点からすれば、本当に税金を持って行くだけの価値のある視察は未だに少数派と言わざるを得ない、というのが私たちの感想です。

たしかに議員にとって視察をすれば、知識や経験の蓄積には役立つかもしれませんが、しかし、そういった社会見学的なものや議員の教養のための旅行などは税金で行うべきではなく、議員が自分の責任と負担において、自己の研鑽の一環として行うべきものではないでしょうか。税金が支給されないと自己を研鑽できない、というような態度は怠慢と考えます。

最後に今年も愛知県、名古屋市の両議会会派の政務調査費について触れなければなりません。名古屋市議会、愛知県議会の議員は私たちが調査した市の議員の何倍も政務調査費の支給を受けている、という計算になります。にもかかわらず、領収証などの用途に関する情報を公開しないのは、私たちが批判した市議会各会派と比較にならないほど、批判を受けそうな使い方をしているからではないでしょうか。

都道府県議会に目を移すと、今年度は岩手県、長野県の各県議会会派は政務調査費の領収証までも全面的に公開するようになっていきます。政務調査費の支出内容を隠しつつけることのできる時代ではないのです。

来年の調査こそは愛知県、名古屋市の各議員の政務調査費の用途について私たちが「市民監査報告書」を作成できるよう、求めます。

2004年7月24日

#### 愛知県市民オンブズ連絡会議

（市民オンブズ岡崎、市民オンブズ知多半島、豊橋の情報公開をすすめる会、名古屋市民オンブズマンタイアップグループ）

本レポートのお問い合わせ先：

〒460-0002 名古屋市中区丸の内 3-6-41 リブビル 6 階

名古屋市民オンブズマン 電話 052-953-8052 ファックス 953-8050

